

施策評価シート(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 6 月 17 日

施策No.	17	施策名	道路網の整備
主管課名	地域整備課	主管課長名	増田伸之
関係課名	総務課(水上支所、新治支所) 農政課(農村整備G)		

施策の目的 【対象】	対象指標名	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
			実績	実績	実績	実績	見込み	見込み
①町民(外国人含) ②来訪者(観光客日帰り+宿泊) ③町内の道路(国県町道)	①人口(外国人含)	人	24,250	23,809	23,305	22,924	22,591	
	②来訪者数	人	3,850,066	3,689,183	3,713,752	3,600,664		
	③道路延長(町道)	km	1099	1113.7	1123.1	1125.3		
	④道路延長(県道)	km	116.2	122.5	122.5	114.8		
	⑤道路延長(国道)	km	67.9	67.9	67.9	67.9		

施策の目的 【意図】	成果指標名	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
			実績	実績	実績	実績	目標	目標
①②安全で快適な道路空間を提供する。 ※道路空間とは概ね道路施設のこと。 ③安全で快適な道路を整備する。	①町内の道路で不便さを感じる町民の割合	%			36.6	38.6		
	②道路改良率	%	34.3	35.8	35.6	36.6		
	③都市計画道路の改良率	%	13.4	13.4	13.4	14.0		
成果指標の把握方法と算定式等	①町民アンケート ②道路実態調査 ③整備済延長/都市計画決定延長							

成果指標設定の考え方	①不便さを感じなければ快適な道路空間を提供できたと考える ②、③道路改良率及び都市計画道路整備率が向上すれば、安全で快適な道路を整備できたと見える。
------------	---

施策成果向上にむけた住民と行政との役割分担	<p>1) 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)</p> <p>①道路整備に対して用地の提供や地域の合意形成に努める。 ②地域における道路愛護に努める。 ③地域でできる簡易な修繕及び維持管理を行ってもらう。 ④道路の危険箇所の通報。</p> <p>2) 行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと)</p> <p><町> ①町民ニーズを勘案しながら、住環境の向上や産業の振興に結びつく道路網の整備(維持管理含)を行う。 ②町道の維持管理のための資材支給</p> <p><国・県> ①財政支援 ②国県道の維持管理・整備</p>
-----------------------	--

21年度の 評価結果	<p>1. 施策の成果水準とその背景・要因</p> <p>1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）</p> <p>①町内の道路で不便さを感じる町民の割合は、平成20年度36.6%、平成21年度38.6%と2ポイント増加したが、特別な要因が考えられない。地区別に見ると水上地区43.5%、月夜野地区41.8%、新治地区26.2%となっている。新治地区は幹線道路の整備が充実しており、道路整備が進んでいることが伺える。</p> <p>②道路改良率は、平成18年度34.3%、19年度35.8%、20年度35.6%、21年度36.6%と微増である。町道の総延長が長いこと、計画や用地買収が先行し工事の完成に至っていないことが要因と思われる。</p> <p>③都市計画道路の改良率は、平成18年度13.4%、19年度13.4%、20年度13.4%、21年度14.0%と微増である。道路計画を一部変更し、総延長が減じられたため、改良率が上昇している。</p> <p>2) 他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）</p> <p>①町道延長は県内町村では上位であるため、整備率の向上を図るためには多大な投資が必要となる。</p> <p>②県内における道路改良率の平均は46.1%であり、本町の水準が低いことが読み取れる。</p> <p>3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか）、その他の特徴は？</p> <p>①町民の4割が不便さを感じているが、どこに不便さを感じているか正確なデータはない。水上地区では雪が多いこと、月夜野地区では道路が狭いことに原因があると思われる。</p> <p>②不便さを解消するためには、道路改良が必要であるが、財源を確保することが必要であり、期待に十分応えられていない。</p>
	<p>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括</p> <p>1) 原材料購入事業は、資材費を町が負担し労務を地域が負担することで町道の修繕整備を進めるものであり、町の修繕費が軽減された。</p> <p>2) 入須川師田線の改良工事により1車線道路が2車線道路に拡幅され通行の安全が確保された。</p> <p>3) 全国街道交流会参画事業については、歴史をテーマにシンポジウムや研究を行っているものであり、道路網の整備として効果に乏しいと考えている。本町ではたくみの里における歴史国道が該当し、どちらかといえば観光振興に寄与するものと思われる。</p> <p>4) 国有林野道路敷借り上げ事業について、町道用地の一部について国有林を借用しているが、不特定多数の利用が可能な道路であり、国有林野担当部局も利用しているものに町が借地料を負担していることに疑問を感じているが、現行の法令では難しいところもあることから、引き続き関係機関と協議を重ねていきたいと考えている。</p>
	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p> <p>1) 町民の4割が不便さを感じているが、どこに不便さを感じているか正確なデータがないため、町民アンケートの設問を工夫する必要がある。(例)あなたは、国道、県道以外の道路について、どんなところに不便さを感じますか？ア道路が狭い イ歩道がない ウ暗い エ国道、県道への接続が悪い オ水はけが悪い カその他()</p> <p>2) 町の予算も限られており、国・県においても公共事業予算は削減傾向であるため、道路整備の基本方針を樹立し、着実に整備を進めることが重要である。県代行事業の導入もひとつの方策と考えられる。</p> <p>3) 橋梁長寿命化計画事業に取り組み、老朽化した橋梁の計画的な補修整備を進める。長寿命化計画を策定しないと補助事業に該当しない。橋長15m以上の橋梁だけでも本町に85箇所存在し、耐用年数を経過したものや老朽化が顕著な橋梁も多く存在することから、診断結果によっては、多大な投資が必要となる。</p>